

〈2〉市内高齢者の老人クラブに関する意識についての調査研究 —加入促進に向けた提案—

市政研究センター 副所長 野澤 幸雄

要旨 高齢化が進展する中、老人クラブが地域包括ケアシステムを構築するうえで貴重な担い手として期待されている。また、クラブ活動は高齢者の健康づくりや介護予防につながるとともに、社会参加の場として貴重な役割を果たしている。本研究では、老人クラブの加入促進につながるよう、老人クラブが取り組むべき活動についてまとめるとともに、新規クラブの立上げや既存クラブの存続支援について提案する。

キーワード：新規クラブの立上げ、既存クラブの存続

1 はじめに

(1) 研究の背景と目的

日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進展している。国においては、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している¹。

西田（2020）は全国各地で友愛運動に主体的に取り組む老人クラブの存在は地域包括ケアの担い手を確保するうえで貴重であると指摘している。高齢者は、長い経験の中で培った能力や経験を有しており、地域包括ケアの担い手として老人クラブに取り込むことができれば、地域社会が抱える様々な課題の解決に寄与するものと考えられる。

また、西田は友愛活動のような利他的な活動への参加を希望しない指向性が強いとしても、自身に直接有益な健康づくり、介護予防活動への参加が図られれば、それも地域包括ケアの一翼をなすとも指摘している。地域において避けたい問題の1つは高齢者の孤立である。宇都宮市（以下「本市」という）においても、一人暮らし高齢者世帯は増加が見込まれており²、高齢者の社会参加の場

としても老人クラブは貴重な役割を担っている。

老人クラブは戦後の荒廃した社会において、先覚者たちが老後に不安を感じている老友や、老後の問題に関心を寄せる人々に呼びかけ、全国各地で次々に結成された³。1970年代から1980年代には会員数は増加したが、2000年代に入ると高齢者人口は増加する一方で、会員数は減少に転じた⁴。

老人クラブの会員数が減少している理由については、高齢者のライフスタイルが多様化する中、仕事を続ける高齢者の増加や、地域とのつながりの希薄化、人間関係の煩わしさの回避、老人クラブ以外の多様な団体・サークル等の存在など様々な理由があげられるが、現状の老人クラブが高齢者にとって魅力ある活動内容やクラブ運営となっていないことが大きな理由と考えられる。

また、一括りに高齢者と言っても、戦中戦後の混乱期を経験した80代と戦後の第1次ベビーブームに生まれた70代前半の「団塊の世代」とでは生まれ育った環境が異なることや、年齢が上がるにつれて体力が低下するなど自身の生活環境も

祉計画第7期宇都宮市介護保険事業計画（地域包括ケア計画）
平成30年3月

³ 公益財団法人全国老人クラブ連合会「戦後の老人クラブの始まり」
<http://www.zenrouren.com/about/history.html>, 2020年12月20日取得

⁴ 高齢社会白書平成13年版 <http://www.zenrouren.com/about/history.html>, 2020年12月20日取得

¹ 厚生労働省「地域包括ケアシステム」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/, 2020年12月20日取得

² 宇都宮市「にっこり安心プラン第8次宇都宮市高齢者保健福

変化することなどから、年齢層によって意識は違っているものと考えられる。

本研究では老人クラブの現状や高齢者の意識などを把握し、加入促進に向けた老人クラブの取組ならびに行政支援について提案する。

(2) 研究の構成

本研究では、まず老人クラブの概況について整理する（2章、3章）。次に、市内高齢者を対象とした老人クラブに関する意識調査を実施し、結果を分析する（4章）。最後に、加入促進に向けた老人クラブの取組案をまとめ（5章）、その上で本市が取り組むべき施策について提案する（6章）。

2 老人クラブと全国の現状

(1) 老人クラブとは

老人クラブは昭和38年に施行された老人福祉法の第13条において「地方公共団体は、老人の心身の健康の保持に資するための教養講座、レクリエーションその他広く老人が自主的かつ積極的に参加することができる事業を実施するように努めなければならない。2 地方公共団体は、老人福祉を増進することを目的とする事業の振興を図るとともに、老人クラブその他当該事業を行う者に対して、適当な援助をするように努めなければならない」と規定されているコミュニティ組織である。

入会を希望するおおむね60歳以上の高齢者を対象としており、歩いて集まることのできる地域の範囲で組織し、規模はおおむね30名から100名を標準としている。地域の老人クラブ（単位老人クラブ）を核に、市区町村、都道府県・指定都市、全国の段階に老人クラブ連合会を組織している。

(2) 全国の老人クラブの現状

全国老人クラブ連合会のホームページによると、老人クラブは昭和29年には全国で112クラブあることが確認され、昭和37年には全国老人クラブ連合会が設立された。1970年代から1980年代にかけて、老人クラブは発展期を迎え、平成10年には全国の老人クラブが約13万4千クラブ、会員数が約886万9千人となった。しかし、その後は減少を続け、平成31年3月末現在、クラブ数は約9万6千クラブ、会員数は約524万6千人となっている。

3 本市の老人クラブの現状

(1) 老人クラブ数・会員数

本市における令和元年の老人クラブ数は301クラブ、会員数は16,824人で、男性が7,053人、女性が9,771人である（表1）。

表1 会員数と加入率

	全 体	男	女
高齢者人口（人）	130,108	57,482	72,626
会員数（人）	16,824	7,053	9,771
加入率（％）	12.9	12.3	13.5

著者作成

1) 加入率

65歳以上の高齢者に係る老人クラブへの加入率は、市全体で約12.9%であり、男性が12.3%、女性が13.5%で、女性の方が若干高いが、男女間に大きな差はみられない（表1）。

加入率について市内39地区ごとに見てみると、加入率が37.7%と高い地区から0%の老人クラブが存在しない地区までさまざまである。中心部25地区と周辺部14地区では、平均の加入率に大きな差はみられない。しかし、本市には老人クラブがすべて消滅した地区が2地区存在するが、2地区とも中心部に位置している。また、加入率が30%を超える高い地区が2地区（37.7%と34.2%）存在するが、2地区とも周辺部に位置

している。

2) 会員数とクラブ数の推移

本市の平成22年から令和元年までの10年間に
おける老人クラブの会員数とクラブ数の推移を整理した（表2）。会員数は20,479人から16,824人に減少し、割合では82.2%に減少している。クラブ数は362クラブから301クラブに減少し、割合では83.1%に減少している。会員数とクラブ数との減少の割合はほぼ同じ水準である。

市内39地区ごとに比較すると、会員数が増加している地区は8地区あり、そのうち50%を超えて増加している地区は2地区（A、B）存在する。

また、会員数が減少している地区は31地区あり、そのうち50%を超えて減少している地区は4地区（C、D、E、F）存在する（表3）。

会員数とクラブ数の関係に着目すると、会員数が大きく増加している地区ではクラブ数も増加しており、会員数が大きく減少している地区ではクラブ数も減少している。

表2 会員数とクラブ数の推移

平成22年		令和元年			
会員数 (人)	クラブ数	会員数 (人)	H22比 (%)	クラブ数	H22比 (%)
20,479	362	16,824	82.2	301	83.1

著者作成

表3 会員数が5割を超えて増減した地区

増減	地区	平成22年		令和元年			
		会員数 (人)	クラブ数	会員数 (人)	H22比 (%)	クラブ数	H22比 (%)
増	A	204	5	409	200.5	7	140.0
	B	476	7	730	153.4	10	142.9
減	C	491	9	164	33.4	3	33.3
	D	394	6	108	27.4	2	33.3
	E	403	8	0	0.0	0	0.0
	F	128	1	0	0.0	0	0.0

著者作成

3) 加入率および会員数・クラブ数の関係性

これまでの調査結果から、加入率、会員数・ク

ラブ数の関係性について整理する。加入率は女性が若干高いが、男女間に大きな差はみられなかった。女性の会員数が男性より多い主な理由は、女性の高齢者人口が多いためである。

市内中心部と周辺部の間で、加入率に関する明らかな傾向は認められなかった。しかし、中心部では老人クラブが消滅した地区が2地区存在している。これは中心部では都市化が進み、ある特定の地域においては地域住民の人間関係が極端に希薄化したためと推測される。また、周辺部では加入率が30%を超える高い地区が2地区存在している。これは周辺部の比較的人口が少ない地区では、現在も地域住民の強いつながりが残っているためと推測される。

会員数は老人クラブの新設や解散により、大きく増減する傾向がある。これは老人クラブの新設や解散により、会員数が数十人単位で増減するためと推測される。会員数を増加させるためには、新規クラブの立上げを促進するとともに、既存クラブを存続させる（解散させない）ことが重要である。

(2) 老人クラブ会長へのアンケート調査

宇都宮市老人クラブ連合会は老人クラブの活動状況や課題等を把握するため、平成30年12月に市内すべての老人クラブ会長を対象にアンケート調査を実施した。調査対象となる308クラブのうち298クラブ（96.8%）から回答があり、その集計結果を提供いただいた。

1) 会員数に対する認識

会長の自身が所属する老人クラブの会員数に対する認識については「人数が年々減少している」が43.9%、「人数が少なくクラブ存続の危機感がある」が15.5%で両方を合わせると59.4%になる（表4）。約6割の会長が自身の所属する老人クラブの会員数が減少している、または少ないと認識している。

表4 会員数に対する認識 (N = 303)

	割合(%)
人数が年々減少している	43.9
活動に適した人数である	39.9
人数が少なくクラブ存続の危機感がある	15.5
人数が多くクラブの分割を検討している	0.7

宇都宮市老人クラブ連合会単位老人クラブ調査結果から作成

2) 業務の役割分担と会長の後継者づくり

業務の役割分担については、「役割分担が出来ている」が51.1%と一番割合が高いが、「会則上は分担することとしているが、会長がやらざるを得ないことが多い」が32.6%、「会長がほとんど一人で取りまとめている」が14.3%で両方合わせると46.9%となっている(表5)。

会長の後継者づくりが難しい理由については、「会長の業務が多岐にわたり大変だから」が60.9%、「役員をはじめ会員の協力が得られないから」が19.5%の順となっている(表6)。

表5 業務の役割分担 (N = 307)

	割合(%)
役割分担が出来ている	51.1
会則上は分担することとしているが、会長がやらざるを得ないことが多い	32.6
会長がほとんど一人で取りまとめている	14.3
その他	2.0

宇都宮市老人クラブ連合会単位老人クラブ調査結果から作成

表6 会長の後継者づくりが難しい理由 (N = 302)

	割合(%)
会長の業務が多岐にわたり大変だから	60.9
役員をはじめ会員の協力が得られないから	19.5
前任者と比較されるのが嫌だから	1.7
その他	17.9

宇都宮市老人クラブ連合会単位老人クラブ調査結果から作成

3) 未加入者が多い理由

老人クラブの未加入者が多い理由については、割合の高い順から「定年延長等で仕事を続ける人が増えているから」が57.8%、「老人クラブ以外に様々なサークルがあるから」が51.0%、「地域住民に対するPRが不足しているから」が24.1

%、次に「クラブ活動に魅力がないから」が18.7%となっている(表7)。

表7 未加入者が多い理由(複数回答) N = 294

	割合(%)
定年延長等で仕事を続ける人が増えているから	57.8
老人クラブ以外に様々なサークルがあるから	51.0
地域住民に対するPRが不足しているから	24.1
クラブ活動に魅力がないから	18.7
家族の世話(介護)等で忙しいから	16.7
個人情報のため対象者の把握が難しいから	9.9
自治会内に高齢者を対象とした組織があるから	7.8
その他	10.2

宇都宮市老人クラブ連合会単位老人クラブ調査結果から作成

4) 高齢者世帯等に対する取組

高齢者世帯等に対する現在の取組状況については、割合の高い順から「見守り・安否確認」が61.6%、「会員以外も参加できるサロンやサークル活動」が39.4%、「クラブ行事や買い物、病院等への外出支援」が14.3%となっている(表8)。

表8 高齢者世帯数等に対する取組(複数回答) N = 279

	割合(%)
見守り・安否確認	61.6
会員以外も参加できるサロンやサークル活動	39.4
クラブ行事や買い物、病院等への外出支援	14.3
軽易な家事手伝い等の生活支援	3.9
その他	14.7

宇都宮市老人クラブ連合会単位老人クラブ調査結果から作成

5) 会長へのアンケート調査の結果について

ここでアンケート調査の結果について整理する。会員数については、約6割の会長が自身の所属する老人クラブの会員数が減少している、または少ないと認識しているが、危機感を持っている会長は2割に満たない。

未加入者が多い理由については、「仕事を続ける人が増えている」ことや「老人クラブ以外に様々なサークルがある」など社会環境の変化が大きな理由と考えており、「クラブ活動に魅力がない」と考えている会長は2割に満たない。

業務の役割分担については、半数近い老人クラブにおいて、会長が一人で業務を抱え込んでおり、その業務が多岐にわたることから、会員が会長となることを避けていると推察される。業務の役割分担は、会長の負担軽減だけでなく、新会長への円滑な移行のためにも重要である。

(3) 老人クラブ会長へのヒアリング調査

宇都宮市老人クラブ連合会から、活発に活動されている老人クラブ会長6名を紹介いただき、令和2年10月にクラブ活動の内容や勧誘方法等についてヒアリング調査を実施した。

1) 会長の選任等について

6つすべての老人クラブにおいて、会長の選任方法は互選、任期は2年で再任は可能としている。多くの会長が再任されており、通算の任期が10年を超える会長もいらした。

会員数は男性より女性の方が多いが、多くの老人クラブで男性が会長に就いている。この理由について尋ねると、ある会長は「女性は出しゃばりだと思われたくないので会長はやりたがらない」が、「会長以外の役職ならやってもいいという女性が多い」と話をしてくれた。

2) 業務の役割分担について

業務の役割分担については、6クラブのうち4クラブでうまく役割分担ができていた。会長が事業を各担当者に任せ、会長は統括に徹していた。担当者は楽しみながら創意工夫をして事業を実施しているようである。

一方、役割分担がうまくできていない2クラブの会長に理由を尋ねると「会員の高齢化が進み、事業を任せられる人材がいない」、「無理に事業を任せると辞めてしまう」とのことだった。

3) 活動内容について

活動内容については、グラウンドゴルフやペタンク、輪投げ、カラオケ、麻雀、手芸、懇親会、旅行等多岐にわたり、それぞれの老人クラブが工

夫を凝らしている。全体的にグラウンドゴルフの人気の高い印象である。しかし、会員の減少や高齢化により、グラウンドゴルフができない老人クラブもあった。

4) 勧誘方法について

勧誘方法については、会員の友人や地域行事などで顔見知りになった高齢者に声をかけて勧誘していた。ある会長は「自治会と連携しながら、地域で顔の見える関係を構築することが重要だ」と話していた。未加入者に対し個別に訪問を実施している老人クラブはなかった。

5) ヒアリング調査の結果について

ここでヒアリング調査の結果について整理する。活動が活発な老人クラブでは、会長が事業をそれぞれの担当者に任せている。担当者が創意工夫をして事業を実施することにより、活動の魅力向上につながっている。

勧誘方法は、会員の友人や地域行事などで顔見知りになった高齢者に声をかけて勧誘している。地元自治会と連携しながら、地域で顔の見える関係を築いたうえで勧誘することが効果的である。

ある会長は「クラブの明るい雰囲気づくりには女性の活躍は欠かせない」と話していた。老人クラブの活性化には、会員数の多い女性を活用することが効果的である。会長が男性なら、役員に女性を多く登用するなどの配慮が必要である。

4 市内高齢者の老人クラブに関する意識調査

(1) 調査の概要

市内高齢者の老人クラブに関する意識を調査するため、アンケート調査を実施した。調査対象としたのは市内中心部2地区、周辺部1地区の計3地区から無作為で抽出した65歳から79歳までの高齢者600人。中心部の2地区は比較的加入率が高い地区と低い地区、周辺部は加入率が平均的

な地区を選択し、各地区から 200 人ずつ抽出した。

- ・調査期間：令和 2 年 12 月 17 日～12 月 25 日
- ・調査方法：調査票を郵送配布，郵送回収
- ・回収状況：228 人 回収率 38.0%

(2) 老人クラブの加入率

老人クラブに加入している高齢者は，回答者 228 人中 29 人で加入率は 12.7%であった（表 9）。年代別では 60 代後半が 5.0%，70 代前半が 12.7%，70 代後半が 20.8%と年齢が上がるにつれ，加入率も増加している。

男女別にみると，男性は 70 代前半で加入率が 6.1%，70 代後半で 25.0%に増加している（表 10）。女性は 60 代後半で 9.5%，70 代前半で 18.4%に増加している。

表 9 老人クラブの加入率（N = 228）

全 体	60代後半	70代前半	70代後半
12.7%	5.0%	12.7%	20.8%

アンケート調査結果から作成

表 10 老人クラブの加入率（男女別） N = 228

	全 体	60代後半	70代前半	70代後半
男	9.1%	0.0%	6.1%	25.0%
女	15.5%	9.5%	18.4%	18.4%

アンケート調査結果から作成

(3) 加入のきっかけと勧誘の状況

老人クラブへの「加入のきっかけ」については，「クラブから勧誘された」が 79.3%と最も割合が高く，「クラブ以外から勧められた」の 6.9%を合わせると，勧められて加入した高齢者の割合は 86.2%となる（表 11）。「クラブ以外」とは自治

表 11 加入のきっかけ（N = 29）

クラブから勧誘された	79.3%
クラブ以外から勧められた	6.9%
会報等で募集案内を見た	3.4%
その他	10.3%

アンケート調査結果から作成

会と地域包括支援センターから勧められたケースであった。

老人クラブ未加入者のうち地域に老人クラブがあると回答した 74 人に対し，老人クラブからの勧誘の状況について尋ねた（表 12）。「勧誘されたことがある」が 18.9%であるのに対し，「勧誘されたことがない」が 67.6%であった。

表 12 勧誘の状況（N = 74）

勧誘されたことがある	18.9%
会報等で募集案内を見たことがある	13.5%
勧誘されたことがない	67.6%

アンケート調査結果から作成

(4) 活動内容

クラブの活動内容については，割合の高い順から，「健康づくり・介護予防」が 58.6%，「趣味・レクリエーション」が 37.9%，「友愛ボランティア」と「環境・リサイクル」がどちらも 24.1%となっている（表 13）。

表 13 活動内容（複数回答） N = 29

健康づくり・介護予防	58.6%
趣味・レクリエーション	37.9%
友愛ボランティア	24.1%
環境・リサイクル	24.1%
安全・安心まちづくり	13.8%
世代交代・伝承	6.9%
その他	10.3%

アンケート調査結果から作成

(5) 退会の理由

老人クラブを退会している高齢者は 8 人で，退会の理由は「老人クラブが解散した」が 3 人，「健康上の問題」が 2 人，「人間関係が煩わしい」と「仕事が忙しい」がそれぞれ 1 人となっている（表 14）。

表 14 退会の理由（N = 8）

老人クラブが解散したから	3人
健康上の問題	2人
人間関係が煩わしいから	1人
仕事が忙しいから	1人
無回答	1人

アンケート調査結果から作成

(6) 加入率低下の理由

老人クラブへの加入率低下の理由についてどのように考えているのか、全員に複数回答で選択いただいた。割合の高い順から「人間関係が煩わしそう」が39.5%、「活動内容が知られていない」が30.3%、「仕事を続ける人が増えている」が27.2%となっている（表15）。

表15 加入率低下の理由（複数回答）N = 228

人間関係が煩わしそう	39.5%
活動内容が知られていない	30.3%
仕事を続ける人が増えている	27.2%
名称に抵抗がある	23.7%
他団体・サークルの存在	23.7%
活動内容に魅力がない	20.2%
ボランティア活動を求められる	4.4%
経済的に負担	3.9%
その他	6.6%

アンケート調査結果から作成

1) 老人クラブに加入したくない高齢者

加入率低下の理由について、老人クラブに「加入したくない」と回答した高齢者100人の回答を抽出して集計した（表16）。全体では割合の高い順から「人間関係が煩わしそう」が51.0%、「活動内容に魅力がない」と「他団体・サークルの存在」が同じく29.0%となっている。

表16 加入したくない高齢者の理由（複数回答）N = 100

理 由	割合 (%)						
	全体	60代後半		70代前半		70代後半	
		男	女	男	女	男	女
人間関係が煩わしそう	51.0	50.0	70.6	44.4	46.7	33.3	52.2
活動内容に魅力がない	29.0	37.5	11.8	44.4	13.3	50.0	26.1
他団体・サークルの存在	29.0	16.7	29.4	44.4	40.0	8.3	39.1
名称に抵抗がある	24.0	33.3	29.4	11.1	20.0	16.7	21.7
仕事を続ける人が増えている	22.0	16.7	23.5	55.6	20.0	16.7	17.4
活動内容が知られていない	18.0	16.7	23.5	11.1	6.7	16.7	26.1
ボランティア活動を求められる	4.0	8.3	0.0	11.1	0.0	8.3	0.0
経済的に負担	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
その他	4.0	4.2	5.9	0.0	13.3	0.0	0.0

アンケート調査結果から作成

男女別、年代別でみると、男性は60代後半では「人間関係が煩わしそう」が50.0%と割合が一番高く、70代前半では「仕事を続ける人が増えている」が55.6%と割合が一番高いが、二番目に高い「人間関係が煩わしそう」、「活動内容に魅力がない」、「他団体・サークルの存在」も44.4%となっており、回答が分散する傾向にある。70代後半では「活動内容に魅力がない」が50.0%と割合が一番高くなる。女性はすべての年代において「人間関係が煩わしそう」との理由の割合が一番高くなっている。

2) 老人クラブに加入している高齢者

加入率低下の理由について、老人クラブに加入している高齢者29人の回答を抽出して集計した（表17）。割合の高い順から「活動内容が知られていない」が41.4%、「仕事を続ける人が増えている」が31.0%、「名称に抵抗がある」が27.6%となっている。

老人クラブに「加入したくない」と回答した高齢者が上位の理由にあげた「人間関係が煩わしそう」と「活動内容に魅力がない」はともに17.2%で割合は高くない。

表17 加入している高齢者の理由（複数回答）N = 29

理 由	割合 (%)						
	全体	60代後半		70代前半		70代後半	
		男	女	男	女	男	女
活動内容が知られていない	41.4	0.0	25.0	100.0	28.6	28.6	55.6
仕事を続ける人が増えている	31.0	0.0	0.0	50.0	28.6	57.1	22.2
名称に抵抗がある	27.6	0.0	75.0	0.0	0.0	42.9	22.2
他団体・サークルの存在	24.1	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6	33.3
活動内容に魅力がない	17.2	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	33.3
人間関係が煩わしそう	17.2	0.0	25.0	0.0	57.1	0.0	0.0
ボランティア活動を求められる	10.3	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	11.1
経済的に負担	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
その他	3.4	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

アンケート調査結果から作成

(7) 地域における老人クラブの有無

居住している地域における老人クラブの有無に

ついて尋ねると、全体では「分からない」との回答が55.8%と過半数を占めた（表18）。

男女別、年齢別で見ると、男性は70代前半では76.7%が「分からない」と答えているが、70代後半になると33.3%に減少する。女性は60代後半では71.1%が「分からない」と答えているが、70代前半には48.3%、70代後半には28.6%に減少する。

この結果から、おおむね男性は70代後半、女性は70代前半になると地域の老人クラブに対する関心が高まる傾向にあり、老人クラブの活動内容が知られるようになると推測できる。

表18 地域における老人クラブの有無（N=190）

	割合（%）						
	全体	60代後半		70代前半		70代後半	
		男	女	男	女	男	女
分からない	55.8	67.6	71.1	76.7	48.3	33.3	28.6
有る	38.4	27.0	26.3	23.3	48.3	61.9	54.3
無い	5.8	5.4	2.6	0.0	3.4	4.8	17.1

アンケート調査結果から作成

(8) アンケート調査の結果について

ここで高齢者へのアンケート調査の結果について整理する。

1) 加入の傾向

老人クラブへの加入率は、男性は70代後半から女性は70代前半から増加する傾向にある。これは、男性は加齢に伴う体力や気力の低下により、これまで楽しんでいたレジャー（たとえば、ゴルフや麻雀など）を続けることが難しくなり、老人クラブへの関心が高まるためと推測する。

また、女性が男性より若干早く加入する傾向があるのは、女性は男性より早くから地域コミュニティに馴染んでいるケースが見受けられ、地域コミュニティを通じて先輩知人等から勧誘されているためと推測する。

老人クラブへの加入のきっかけは、約8割の会員が勧誘されたことをきっかけに加入している。

しかし、未加入者のうち実際に勧誘された経験のある高齢者は2割に満たない。

2) 認識のギャップ

老人クラブへの関心が高まる年齢（おおむね男性が70代後半、女性が70代前半）において、老人クラブに加入したくない高齢者が考える加入率低下の1番の理由は、男性が「活動内容に魅力がない」、女性が「人間関係が煩わしそう」である。これは地域コミュニティ組織に対し、男性は活動内容を、女性は人間関係を重視する傾向があるためと推測する。

一方、老人クラブに加入している高齢者はPR不足や、仕事の継続や他団体・サークルの存在などの社会環境の変化、老人クラブの名称の問題が理由だと考えており、活動内容や人間関係などクラブ活動や運営自体に問題があると考えている高齢者の割合は少ない。

老人クラブに加入したくない高齢者と加入している高齢者との間には活動内容やクラブ運営などに関する意識のギャップが存在する。

5 今後の老人クラブの取組案

これまでの調査分析をふまえ、加入促進に向けた今後の老人クラブの取組案についてまとめる。

(1) 地域との関係構築

会長へのヒアリング調査の結果から、地元自治会と連携しながら、顔の見える関係を築いたうえで勧誘することが効果的であることが分かった。まずは、老人クラブが地域と良好な関係を構築することが重要である。

老人クラブが地域行事に参加したり、主催する事業に地域住民を招待するなど、地域住民と積極的に交流を図り、顔の見える関係を構築する。特に地元自治会との連携は重要であり、地域の広報活動や高齢者の勧誘などの協力を得る必要がある。

また会長の後継者がいないことが老人クラブ解散の理由の1つであることから、将来の老人クラブの会長候補として地元自治会の会長や役員に対し、積極的に加入を促すべきである。

(2) ブランド力の向上

会長へのアンケート調査の結果から、6割を超える老人クラブが高齢者世帯への見守り・安否確認などの友愛活動に取り組んでいることが分かった。高齢者世帯への友愛活動のほか子どもの見守り活動などボランティア活動を実施することは、地域での評価を高めることに有効である。地域で必要なコミュニティ組織であると住民から認知されれば、老人クラブのブランド力がアップし、加入促進の力になると考える。

また、誰でも参加できる「歩け歩け大会」の開催や、会員以外でも参加できるサロンの運営は、老人クラブの評価を高めるだけでなく、地域の高齢者が老人クラブに関心を持つきっかけにもなる。

(3) クラブ活動の多様化

市内高齢者へのアンケート調査の結果から、多くの高齢者がクラブ活動の内容に魅力がないと感じていることが分かった。クラブ活動の魅力を向上させるためには、高齢者のニーズを取り入れた活動を新設し、クラブ活動の多様化を図る必要があると考える。

新規会員が多様なクラブ活動の中から好きな活動を選択できるようになることが望ましい。地域との良好な関係を構築し、会員のみならず比較的若い高齢者の声にも耳を傾けて、その高齢者が入会したくなるような事業を新設する必要がある。他県ではあるがゴルフ部を新設し、新規会員を獲得した事例もある。

また、老人クラブ間で情報交換の機会があるとよいのではないか。各々の老人クラブでは魅力的な活動がされていても、他の老人クラブに情報が

共有されていないケースが見受けられる。たとえば、市内ブロックごとに情報交換会を開催し、取組事例などの情報の共有化を図るほか、要望等に応じて講師を派遣するなど地域のニーズに合った内容にすべきである。近隣の老人クラブ間で事業の合同開催に発展すれば、ブロック全体の活発化にもつながると考える。

(4) 役割分担の徹底

会長へのヒアリング調査の結果から、活動が活発な老人クラブでは、会長が事業をそれぞれの担当者に任せており、担当者が創意工夫をして事業を実施することにより、活動の魅力向上につながっていることが分かった。

会長が単独でクラブ運営を行うと、事業はマンネリ化しやすく、老人クラブの魅力が低下する。魅力の低下は会員数の減少につながり、更なる会員数の減少や高齢化など悪循環に陥ってしまう。また、会長が引退する場合には、会長の後継者が育成されていない、あるいは会長の業務負担が大きいことから、会員が会長となるのを避けるなど後継者不在により、老人クラブが解散となる恐れもある。会員の役割分担を徹底することは、活動の魅力向上、さらには会長の後継者育成にもつながっている。

(5) PR活動の強化

市内高齢者へのアンケート調査の結果から、約8割の老人クラブの会員が勧誘されて加入しているが、実際に勧誘をされたことのある高齢者は2割に満たないことが分かった。

顔の見える関係を築いたうえで、勧誘するのが効果的ではあるが、地域のすべての高齢者と顔の見える関係を構築することは困難である。

おおむね70代前半までの高齢者は老人クラブに関心が低い傾向にあり、老人クラブに関する情報が不足していると推測される。広報紙やチラシ

等を活用し、自治会等の協力を得ながら、回覧・配布するなど地域の実情に合わせてクラブ活動を積極的にPRする必要がある。

今後は、老人クラブに興味を持った高齢者がいつでも情報収集できるようホームページの作成も必要になるだろう。

6 加入促進に向けた提案

(1) 新規クラブの立上げ支援

会員数を増加させるためには、新規クラブの立上げを促進することが効果的である。令和2年度は本市において787の単位自治会に対し、293の老人クラブが存在しており、設置率は37.2%である。未設置の自治会に老人クラブを立ち上げることができれば、会員数の大幅な増加が見込まれる。

新規クラブの立上げには、地域の自治会やキーパーソン等と信頼関係を構築したうえで、立上げに向けた機運を醸成し、地域や関係者等をしっかりと支援する必要がある。現在、宇都宮市老人クラブ連合会は、立上げの準備を進めている地域に出向き、必要な手続き等の説明を行っている。今後は一歩進んで、未設置の地域を積極的に訪問し、新規クラブの立上げを促すなどの取組についても検討し、本市としては宇都宮市老人クラブ連合会と連携を図りながら、時宜を得た助言をするなど後方支援を行っていく必要がある。

また、新規クラブの解散防止や活動の活性化を図るため、現在は補助金支給の対象とならない会員数が30人未満の新規クラブに対しても財政的な支援について検討する必要があると考える。

(2) 既存クラブの存続支援

会員数を減少させないためには、既存クラブを継続させる（解散させない）ことが効果的である。老人クラブ解散の理由の1つが会長の後継者がい

ないことである。約半数の老人クラブにおいて、会長が業務を抱え込んでおり、その業務が多岐にわたることから、会員が会長となることを避けていると推察される。業務の役割分担は、老人クラブ存続のために大変重要である。

宇都宮市老人クラブ連合会は、役割分担に関する老人クラブとの意見交換を実施するなど現状の把握に努め、業務のマニュアル化、会長任期の制限などの対応策について調査研究し、本市としては宇都宮市老人クラブ連合会と連携を図りながら、効果的な助言をするなど後方支援を行っていく必要がある。

また、本市では令和2年度から会員数が30人未満に減少した老人クラブに対しても、最長3年間にわたり補助金を交付することとしている。既存クラブの存続には大変有効な制度である。今後は、制度の効果を見極めながら、個々の活動状況等に応じて期間を延長できるようにするなど柔軟な対応を検討する必要があると考える。

7 おわりに

本研究では市内高齢者の老人クラブに関する意識について調査分析し、そのうえで老人クラブの加入促進につながる取組案をまとめ、必要な行政支援について提案した。

本研究の遂行にあたっては、宇都宮市老人クラブ連合会会長をはじめ役員・事務局の皆様、本市高齢福祉課から協力をいただきました。末筆ながら心より御礼申し上げます。

参考文献

西田恵子、2020、「コミュニティの持続に関わる人材の確保と育成に向けた計画的取組の必要性―地域福祉の視座から―」公益財団法人日本都市センター『コミュニティの人材確保と育成―協働を通じた持続可能な地域社会―』151